

第 12 回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和 5 年 12 月 18 日（金）午後 3 時～午後 5 時

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曽根、三浦

そ の 他 企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田

1. 報告__教育委員会の取組について報告（主任指導主事から報告）

◆教育講演会（工藤勇一氏）とその後の取組について

・参加した教員にアンケートを実施しました。発想の転換が求められている理由や、当事者意識を持たせることの大切さが学べたなど 9 割以上が満足しており、再度、工藤先生の講演を希望する者も 9 割以上でした。

・主体的に社会参画していく子供の育成、教職員の意識改革、学校経営の工夫など学ぶため、11 月 17 日に教務主任の自習研修において横浜創英中学・高等学校を視察しました。

・成岩中学校教員が企画し、1 月 9 日に工藤先生とオンラインでつなぎ、研修を実施予定です。

◆実践事例の取組について

・今年度からの取組として「幸せになるための教育」の実践事例の授業の板書写真を全教員が見ることができる場所に保存しています。12 月 8 日現在で 166 件の蓄積があります。（画像紹介）

・例えば、小学校 4 年生の国語「ごんぎつね」では内容の読み込みだけでなく、深掘りし、幸せについて考える機会としました。

2. 意見交換

◆教育講演会（工藤勇一氏）とその後の取組について

○委員

工藤先生の講演会のアンケート結果で、9 割以上の方が満足している理由の上位に、発想の転換が求められていることや当事者意識をもたせることが上位の回答となっていることは、現状否定をしているからだと思います。やらされ感をなくし、主体的に動くことができるよう

になる表れだと思います。過去の教育の主体性がないことで子どもたちの主体性が失われ、日本の国力低下につながった現状を変えられる、可能性を感じます。

○委員長

アンケートの結果から、変化が必要であることがわかります。子どもの主体性、考える力が重要であると感じます。また、工藤先生の講演では、「教育から社会を変える」は非常に共感します。

工藤先生の視察は現場の先生から行きたいとの声が上がったのですか。

○学校教育課主任指導主事

年明けの研修は現場の教員から出てきたものです。視察については行きたいとの声はありましたが具体的に決まりませんでしたので、教育委員会が日程調整を行い、募集を行い、実施しました。

○委員

工藤先生の講演会の参加はどの程度の参加率でしたか。

○学校教育課主任指導主事

700 人弱の全教員に案内し、当日は 531 人、録画で 56 人が視聴していますので多くの教員が参加しました。

○委員

アンケートの結果をみても、お金をかけただけの価値ある研修だったと思います。

○委員

教員から学びの要望はありますか。工藤先生の講演会をまた聞きたい方が多い理由を何だと思いませんか。

○学校教育課主任指導主事

一斉研修は敬遠されがちですが、今回はそうではなかったと思います。工藤先生は話が上手だったこと、「まだまだ続きの話もありますよ」と発言され、次の機会を期待させる終わりとしたことで、教員が興味を持ったと考えています。

○委員

教員は最先端を学びたいと考えている教員が多いのではないのでしょうか。日本の教育は教えることに重点が置かれており、私が小中学生だったころとあまりかわっていないと思います。iPad など導入され、教員も学ぶ喜びを実感できると良い効果が得られると思います。工藤先生の講演会で刺激を受けた教員が多かったようですので、もっと教員が学べる機会が増やせると良いと思います。横浜創英中学の視察でもゲストティチャーの山中大介氏の講演があります。彼も時代の最先端を行く経営者です。市の役割として、教員の負担軽減だけでなく、学ぶための費用負担や、行動に対する評価の面もしっかりサポートできると良いと思います。

○委員

1月9日の工藤先生の研修会はどのように開催しますか。

○学校教育課主任指導主事

オンラインによる研修会となります。成岩中学校以外の学校にも参加を呼びかけます。

○委員

保護者などは見ることはできますか。

○学校教育課主任指導主事

対象者を教員に絞ることで深まりを持たせられると工藤先生も言っていますので、今回は保護者等の視聴は想定していません。

◆実践事例の取組について

○委員

実践事例の蓄積について、ハッピーウィークの公開授業の板書でしょうか。

○学校教育課主任指導主事

ハッピーウィークの公開日に限らず、今年度に一人一事例以上の提出をお願いしています。そのため、提出件数＝取組数になるわけではありません。幸せになるための教育に資する取組として、学校単位ではハッピーウィークの公開授業、個人では実践事例の提出となります。実践事例の提出は教員個人に任せていますので、これから提出する教員もいると思います。

○委員

取組にあたり、教員から教育委員会に問い合わせはありましたか。

○学校教育課主任指導主事

ありませんでした。

○委員

実践事例の蓄積は、過去に実施したことはありましたか。

○学校教育課主任指導主事

各学校で実施していた可能性はあるかもしれませんが、市内の全学校としての取組は初めてです。

○委員

実践事例の蓄積による効果を教えてください。

○学校教育課主任指導主事

効果はまだわかりません。月に 1 回、有志による教員の勉強会が市役所で開催されています。昨年から教育委員会主催で始まり、10 人程度から 50 人ほどに参加者が増えており、授業方法の意見交換や、幸せになるための教育が話題になるなど、授業が上手になりたい意欲が伝わってきます。

○委員

授業方法について意見交換できる場があることは良いことです。この会議も授業についての意見交換できる機能があれば良いと思います。

また、市役所での勉強会は、学校訪問における指導とは異なるものですか。

○学校教育課主任指導主事

学校訪問の指導は、国や学校が求める授業を基準としていますが、勉強会は参加する教員の興味・関心で実施されていますので、全く違うものになります。

○委員長

教員の自主性が感じられ、良い取組です。教員の自主性が育まれれば、子どもたちの自

主性も伸びていくと思います。

また、私はフィリピンやタイに行くことがあります。近頃は日本と比べ物価もあまり変わりませんし、現地の人から「日本はどうした」と言われ、日本の力の低下を感じます。海外に目を向け、広い視野で物事を見ることが大切です。工藤先生の講演会も国力の話から入ります。国力と教育をリンクして考えることを意識すると良い教育、幸せにつながります。市役所での勉強会でもこのような話ができる機会であると思いますし、継続して欲しいです。教育委員会や市も肯定的にとらえ、バックアップできると良いと思います。

○委員

自主的に実施され、教員が負担に感じないことが重要です。

○委員

情報交換で新たに生まれてくるものもあると思います。

○委員

市内の教員全員が他の教員の実践事例を見ることができる取組は非常に良い取組で、他の市で実施できないことだと思います。続けてください。参加している教員がやらされ感を感じないことが重要です。若手をはじめとする教員のやる気が継続できるような仕組みがあると良いと思います。また、教員から何か意見などは聞いていますか。

○学校教育課主任指導主事

まだ、把握できていません。勉強会についてはやらされ感が全くないとは言えませんが、勤務先以外の教員との人的なつながりができる点で参加者から喜ばれています。また実践事例の蓄積は、終了後の黒板を写真に撮り、データを保存するだけですから負担が少なく、続けられると思います。

○委員

個人に頼ることなく、勤務時間内に実践事例を見る時間を作るなどであると良いと思います。

○委員長

教員の感想・実感は聞きたいです。良い取組だと思いますので発展して、継続して欲しいです。幸せになるための教育が動いていることがわかります。この会議だけではなく、市民の皆さんが知る機会はあるのでしょうか。

○学校教育課主任指導主事

一つの取組がハッピーウィークの学校公開です。

○委員

教育講演会のアンケートで今課題と考えていることの間で最も回答が多かった「子どもの主体性」とは何ですか。また、課題解消の成果をどのように測り、表現していけば良いでしょうか。

○学校教育課主任指導主事

アンケート結果に出ている「発想の転換」や「子どもたちの主体性」は今の教育改革で取り組んでいる「教える」から「共に考える」への変化に起因するものだと思います。私は教育改革の方向性がわかった、理解できたからだと考えます。学校の授業の中で「どう思う？」という問いかけはすでにしていますし、教員はコーディネーターであるという話を良くします。アンケート結果で上位に来た理由はできていないからではなく、まさに取り組んでいるからだだと思います。

○委員

いつ頃から取り組んでいますか。

○学校教育課主任指導主事

数十年前から話し合い活動を大切にする取組などをしてきましたが、平成 29・30・31 年改訂学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」や令和 3 年の GIGA スクールの推進で一気に進んだ実感があります。

○委員

来年の学校を見に行くのはテーマを絞って実施してもらいたいと思います。

○事務局

教育委員会の学校参観ではなく、来年度はハッピーウィークの学校公開日のご案内を考えています。

◆その他

○委員

知り合いに名古屋市で校長先生を務めていた方がいますが、半田の教育 D X は進んで

いと評価していました。また、今年度、市内 5 中学校の校長先生とお話しする機会があり、ある校長は「このまま A I が発展すれば、教員は不要な時代が来る。先生がどうあるべきか考えなければならない。」と話していました。問題意識が高く、驚きました。しっかり考えている教員が自由に取り組むことができれば、どんどん半田の教育が良くなると思います。

○委員

別の市町の方も半田は iPad を導入しており、教育 D X が進んでいると話していました。

○委員長

実践事例の板書で「ごんぎつね」を例に、ご紹介いただきましたが、より深みがある授業を進めるために良い方法はありますか。

○委員

道徳教育と私が考える幸せになるための授業は違います。違いは道徳の授業では教員が考える部分が多く、答への誘導があります。幸せになるための授業は一人一人答が違いますので、子どもたちが考えることが重要な点が最大の違いです。毎週ある道徳の授業のうち、月に 1 回は幸せになるための授業に割り当てると良いのではないのでしょうか。

○委員

文部科学省の決まりで授業として道徳を実施する必要があります。別で考えるのであれば総合の授業で可能です。考える力を育成する時間を持つことは大切です。世界では、希望、夢が語れる子どもたちが多くいると思いますが、日本は発言する機会すら少ないと感じますので、考える、発信できる機会を作ることは良いことだと思います。その結果が幸せに近づくと思います。

○委員長

先ほど見た板書で「みんなの幸せ」というキーワードが何度か出ていたと思います。もちろん大切なことですが、同調圧力になってはいけないと思います。組織ではどうしても、埋もれたり、はじき出される人が生まれると思います。そのような方も幸せになれる社会でないといけません。堀井学園の理事長は P B L 型授業に力を入れています。この課題を解決する力の育成が必要だと思います。日本は同調圧力が強いと思いますが、同じでないといけなく、違いを認め合いながら進んでいけることが幸せにつながると思います。

※PBL(Project Based Learning)型授業・・・問題解決型学習、課題解決型学習
と訳され、生徒が自ら問題を見つけ、自ら解決する能力を身につける学習方法

○委員長

幸せになるために保護者に対してやっていること、できることはないでしょうか。

○委員

ハッピーウィークは半田市内の保護者はわかっているのでしょうか。また、家庭もこの趣旨を理解して幸せについて考えるきっかけになると更に良い取組になると思います。

○事務局

私も小学生の子がいますが、愛称募集や学校公開日の配布物がありましたので、多くの親は認知していると思います。ただし、家庭で幸せについて考える機会になっているとまでは言えないですが、これからの広がり期待しています。また、市民への周知についてもこれからだと思います。

○委員

欠席連絡などにも使う学校連絡アプリ Tetoru で配信がありましたので知っていると思います。また、私もハッピーウィークの学校公開日に行きましたが、道徳で良い内容でしたが、幸せについて深掘りしていこうという意図は、子どもや保護者にはまだ浸透していないと思います。

○委員長

子どもや保護者はもちろん、市民や全国の人を取組と目的を発信して、浸透できればよいと思います。課題もあると思いますが、板書も全国の人も見てもらうのが理想だと思います。

○委員

私たちの会議で提言し、教育に幸せという概念を入れることは新しいと思います。半田中学校で事件がありましたが、学校の責任ではなく、もっと広い視野で教育を考えるきっかけしてほしいと思いますが、個人にかかる問題なので難しいことも理解できます。

3. その他__今後の予定

○事務局

本日が設定いたしました最後の会議です。来年度も引き続き会議を実施します。来年度は、5 月頃に令和 5 年度の教育委員会の取組、アンケート結果などを報告することと、教育大綱の見直しの意見聴取を考えています。10 月頃にハッピーウィークの学校公開日の参

観、2 月頃に教育委員会の取組の報告と総括を予定しています。必要に応じ追加で開催する可能性があります。日程調整は改めて連絡します。

○委員

会議の頻度が少なすぎて、まともな議論ができていません。やる気がなくなります。今日は前向きな議論ができましたので来年度に向け意見を出し、議論を膨らませたいと考えています。意見を言う機会を月に 1 回は設けて欲しいです。

例えば、道徳と幸せになるための教育は同じか違うかなど議論したいです。きちっと決めたうえでこの事業を進めないと中途半端になります。

○事務局

提言するまで、1 月 1 回程度の会議を設け、議論していただきました。その提言の内容が各学校、各教員の主体的な取組をすることとしました。今、必要なのはこの会議で議論を深め、委員会のレベルを上げることではなく、学校のレベルを上げていくことであると考えています。そのため学校での取組報告を中心に会議を開催していくと考えています。来年度は、学校の取組が毎月、報告されるわけではありませんので、3 から 4 回の開催を提示させていただきました。この会議で議論を深めたものを学校・教員などにどのように伝えるかも含め、目的を持った議論が必要であると考えています。

○委員

市長がこの立ち上げた理由は行政の論理では限界があるからと理解しています。公務員だけで考えるのではなく、社会で苦労している民間人の発想を市に導入しなくてはならないためです。2015 年の法改正によって総合教育会議が立ち上がった目的とも合致しています。私は市長に意見をいう権限は与えられていますが、会議を開かないことによって機会を奪われるものではないと考えています。会議の開催は委員長権限ですので会議開催を委員長に要望します。

○委員長

幸せになるための教育の実現がゴールです。会議をどれぐらいの頻度で開催するかは、回数にこだわる必要はなく、適切なタイミングに必要なに応じ開催を考えていきます。現段階では委員の意見も踏まえ、市長と相談して決定し、後日ご案内します。

ゴールである幸せになるための教育に効果的に影響が与えられるための会議にする必要があります。

他の委員の意見はいかがですか。

○委員

会議の間隔があくと、他の会議も多く参加していますので議論の内容を忘れてしまいます。提言はではビジョンを伝えましたが、具体的な中身を議論することはできていません。提言の1. 半田市において「幸せになるための教育」を考えて実現していくことと、3. 教育現場で「幸せになるための教育」を実施しやすい環境整備に努めることは、会議の中で議論できる内容だと思います。具体的な取組内容とゴールが示されていない点が議論できると良いと思います。

現場しか知らず、知識を持たないと、議論が空転してしまう可能性が高いと思います。委員である限りはしっかり知識をもって会議に臨みたいと思います。

○委員

毎月実施の必要性はわかりませんが、もう少し回数があっても良いと思います。

○委員

幸せになることについて考える機会を作ってもらうように提言をしました。その投げかけに対し、学校ができないというならば、できるようにするのはどうするかをこの会議で考える必要があります。学校からの反対や助言を求められていない中で、この会議が議論をすることは疑問を感じます。議論を尽くし、学校に具体的な取組を提案する方法もあると思いますが、私たちの行った提言は学校・教員が主体的に、自由に、進めてくださいと言っているわけですので、この会議が主体的に動くことは違和感があります。

委員

昨年度に提言し、今年度の取組が9か月になるにもかかわらず問題点が出てこないのはおかしいです。民間であれば毎月問題点を洗い出し、解決に向け動く必要があります。時間との戦いです。

委員

民間にそのような視点があることは理解します。教育現場では幸せについて常に考えているわけではありません。短期間に疑問点や問題点を出せというのは難しいと思います。

○委員

現場から課題や問題点を出してもらい議論したいと考えています。

○事務局

市としても教育委員会から問題点などはないか確認しています。解決に向け、予算措置が必要な件等はこの会議に諮ることなく実施しています。また教育現場から、改めて会議に相談したい内容があるとは聞いていませんので会議に諮る内容はないと認識しています。また、この会議は委員の資質を上げることを目的としていない点を考慮してください。

○委員

今年度の反省を来年度に生かしていくことを考えると、今年度にもう1回、開催することは良いことだと思います。教員の困ったことや反応が出てくると、議論が深まると思います。

○企画課長

アンケート結果を含め、今年度の取組の結果が出るのが来年度になってしまうので来年5月頃開催といたしました。

○学校教育課主任指導主事

結果がまとまるのは早くても3月です。

○企画課長

現場に負担をかけずに進めていく趣旨もありますのでご理解をお願いします。

○委員

将来に向け、良いものにするために、スタートでは負担が生じることはやむを得ないと考えます。

○委員長

この会議を開く目的を明確にする必要があります。議論だけでは開催の意味を感じません。ただし、来年度に向け、今は重要な時期だと思います。今日の議論も含め、現場に落とし込んでもらうことを期待します。市長、事務局と相談し、次の開催日をご連絡します。

また、教員の反応を知りたいです。また、スピード感を大切にしたいと思います。

<終了>